

1年言語と文学 (MYP 2 Language and literature) 【国語：4単位】

科目のねらい

MYP「言語と文学」のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・言語を思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
- ・さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。
- ・文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
- ・歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。
- ・文学および非文学のテキストを通して、自分の母国や現在住んでいる国の文化、その他の文化を探究し、分析する。
- ・多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。
- ・生涯にわたる読書への関心を育む。
- ・実際のさまざまな文脈において、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A: 分析	i) テキストの内容、文脈、言葉、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を特定し説明する。
	ii) 作者の選択が、受け手に与える効果を特定し説明する。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えを正当化する。
	iv) ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴の類似点と相違点を解釈する。
B: 構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
	ii) 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
	iii) 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
C: 創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し検討しながら、思考、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
	iii) アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D: 言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
	ii) 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Language and literature guide」に基づいています。

関連概念（言語と文学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関連性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル(文体)	テーマ

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. コミュニケーション 2. 公正性と発展 3. 協働	意見交流・合意形成の方法 〔知識及び技能〕 第1学年 (1)ア(2)ア・イ 〔思考力、判断力、表現力等〕 A 話すこと・聞くこと 第1学年ア・イ・ウ・エ・オ	グループプレゼンテーションのための話し合い 【B】話し合いの整理や議論の発展につながるような声かけや問いかけを行い、洗練された結論を出すことに貢献する。 【C】課題を成功させる創造的なプランを作成し、振り返る。 【D】状況に応じた声の大きさ、アイコンタクトなどを適切に使い、コミュニケーションがよりよく実現するように話す。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. B-9
	2	1. 形式 2. 個人的表現と文化的表現 3. コミュニケーション	論理的な文章構成 エッセイやレポートの書式、文体、引用の仕方 「ダイコンは大きな根?」「ちょっと立ち止まって」(教科書)他 〔知識及び技能〕 第1学年(1)ウ(2)ア・イ(3)オ 〔思考力、判断力、表現力等〕 B書くこと 第1学年 ア・イ・ウ・エ・オ C読むこと 第1学年 ア・ウ・エ・オ	論理的エッセイ 【B】原稿用紙を正しく使い、序論・本論・結論の構成を示す。自分とは異なる意見の存在を想定して、説得力が増すように主張・考察を明確に書く。引用する場合は正しい方法で行う。 【C】ありきたりではない新しい視点やアイデアを提示し、考えを深める。具体例、データ、引用によって、考えを深め、読み手を説得できるような独創性を示す。課題を成功させる創造的なプランを作成し、振り返る。 【D】漢字で書くべきところは正しく書き、句読点等にも留意し、文字や文を正しく整えて書く。論理的文章にふさわしい語彙を使いこなす。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. C-18
	3	1. 創造性 2. 個人的表現と文化的表現 3. 創造的	描写と解釈 「シンシュン」「星の花が降るころに」「少年の日の思い出」「きみの友だち」「西の魔女が死んだ」「あと少し、もう少し」「夏の庭」「バッテリー」 〔知識および技能〕 第1学年(1)ウ・オ(2)ア・イ(3)ウ・オ 〔思考力、判断力、表現力等〕 B書くこと 第1学年 イ・ウ・エ・オ C読むこと 第1学年 イ・ウ・エ・オ	文学表現コメンタリー 【A】作品に描かれた中心的な変化やすぐれた描写とはどのようなもので、どのように効果的に表現されているのかを、授業で学んだ用語や着眼を適切に用いて比較分析する。 【B】指定された用紙を用いて書き、複数の解釈を組み合わせ、根拠のある一貫性のある解釈を成立させている。 【D】コメンタリーとしてふさわしい文体で、誤字脱字のない正しい文を書く。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-A 2. A-3
後期 (10月～3月)	4	1. つながり 2. 時間的空間的位置づけ 3. メディアリテラシー	古典文学を読む 「竹取物語」(教科書)他 〔知識及び技能〕 第1学年(2)ア・イ(3)ア・イ・エ・オ 〔思考力、判断力、表現力等〕 B書くこと第1学年 ア・イ・ウ・エ・オ C読むこと 第1学年 イ・ウ・エ・オ	竹取物語に存在する型を、現代テキストを例示して説明するポスター 【A】古典から現代までつながる型を発見し、竹取物語と現代テキストから例を挙げて分析する。 【C】新しい型を発見し、適切な例を自分で探し出して説明する。 【D】文字や文を正しく整えて書く。情報が読み手に伝わりやすいポスターになるよう、情報量・配置・文字の大きさなどを工夫する。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. C-17
	5	1. コミュニケーション 2. 個人的表現と文化的表現 3. 批判的思考	正しい言葉とは何か 言葉の単位・文の組み立て 〔知識及び技能〕 第1学年(1)エ(2)イ 〔思考力、判断力、表現力等〕 B書くこと 第1学年 ア・イ・ウ・エ・オ	日常表現を文法的に解説するレポート 【A】授業で学んだ文法事項や文法用語を用いて、日常表現について文法的性質について分析、考察する。 【D】文字や文を正しく整えて書く。ふさわしい語彙を使いこなす。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-A 2. C-18

※〔知識及び技能〕(1)語彙・漢字・言葉遣い(2)情報(3)書写・読書の内容については、上記に示されていない場合も適宜取り扱う。

2年言語と文学 (MYP 3 Language and literature) 【国語：4単位】

科目のねらい

MYP「言語と文学」のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・言語を思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
- ・さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。
- ・文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
- ・歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。
- ・文学および非文学のテキストを通して、自分の母国や現在住んでいる国の文化、その他の文化を探究し、分析する。
- ・多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。
- ・生涯にわたる読書への関心を育む。
- ・実際のさまざまな文脈において、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A: 分析	i) テキストの内容、文脈、言語、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を特定し説明する。
	ii) 作者の選択が、受け手に与える効果を特定し説明する。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。
	iv) ジャンルやテキスト内、および複数のジャンルやテキスト間で特徴の類似点と相違点を解釈する。
B: 構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を採用する。
	ii) 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
	iii) 参照と形式化のツールを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
C: 創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方やアイデアを探究し検討しながら、思考、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
	iii) アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D: 言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
	ii) 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Language and literature guide」に基づいています。

関連概念（言語と文学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関連性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル(文体)	テーマ

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. 創造性 2. 個人的表現と文化的表現 3. コミュニケーション	詩歌 知識技能 第1学年(1)オ 第2学年(1)ア・イ・エ 第3学年(1)ウ 思考判断表現 B第2学年イ・ウ・エ・オ C第2学年ア・イ・エ・オ 谷川俊太郎 「詩ってなんだろう」 教科書掲載詩歌作品	詩歌の創作とコメントリー 【A】作品の表現にこめられた意図を、説得力をもって説明する。 【C】様々な技法を用いたり独自性のある表現を試みる。既存の詩の分析においても、着眼や解釈の構築に独自性を発揮する。 【D】文字や文を他らしく整えて書く。創作においてあえて誤った言語を選択する場合は、コメントリーにおいてその意図と効果を説明する。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. D-21
	2	1. 変化 2. 個人的表現と文化的表現 3. 批判的思考	言葉の変化 知識・技能 第2学年(1)イ・オ 第3学年(3)ウ 思考・判断・表現 B第2学年ア・イ・ウ・エ・オ	レポート「若者語や誤用の文法的分析」 【A】文法用語を用いて、若者語や誤用とされる語例について、文法的性質や発生経緯などについて分析、考察する。 【B】適切な具体例を挙げ、構成を整えて書く。 【D】文字や文を正しく整えて書く。ふさわしい語彙を使いこなす。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A、B ③主体的に学習に取り組む態度-A 2. C-17
	3	1. 創造性 2. 個人的表現と文化的表現 3. 創造的思考	文学批評 ～モチーフとエピソード～ 知識・技能 第2学年 (1)イ・エ(2)ア・イ(3)エ 思考・判断・表現 B第2学年イ・ウ・エ・オ C第2学年ア・イ・エ・オ 椎名誠「アイスプラネット」三浦哲郎「盆土産」(教科書)等	文学作品の構造化と論評 【A】文学批評用語を正しく使いこなして作品を分析する。作品の構造を的確にとらえて図式化するとともに、モチーフやエピソードの効果や役割を説明する。 【B】表現を根拠とした分析批評を行う。作品の特徴を複数取り上げて、その関連からテーマの解釈に導く。 【C】読み手としての独創性を示す。説得力のある新しい解釈を構築する。 【D】文字や文を正しく整えて書く。文学批評にふさわしい語彙を使いこなす。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. A-6
後期 (10月～3月)	4	1. 論理 2. 公平性と発展 3. 転移	論理的思考・論理的表現 知識・技能 第2学年(1)ア・イ・エ(2)ア・イ 思考・判断・表現 A第2学年ア・イ・ウ・エ・オ C第2学年ア・イ・ウ・エ・オ 沼田英治「クマゼミ増加の原因を探る」安田喜憲「モアイは語る—地球の未来—」(教科書)等	提言「より良い世界を目指して II」 【B】アイデアが論理的であることを示す。効果を考え構成する。 【C】アイデアや説得するための具体例などにおいて独創性を示す。 【D】場にふさわしく受け手を考慮した言葉遣いを用いる。言語以外のコミュニケーション手段を効果的に用いる。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-C 2. C-12
	5	1. グローバルな関わり 2. 時間的空間的位置付け 3. コミュニケーション	漢文 知識・技能 第2学年(3)ア・イ・エ 第3学年(1)イ(3)ア・イ・ウ・エ 思考・判断・表現 B第2学年ア・イ・ウ・エ・オ	エッセイ「日本語と漢文の関連」 【A】歴史や語彙などの観点から言語交流について考察する。 【B】適切な具体例を挙げ、構成を整えて書く。 【D】文字や文を正しく整えて書く。ふさわしい語彙を使いこなす。	1. ①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-A 2. C-18

※ [知識及び技能] (1)語彙・漢字・言葉遣い(2)情報(3)書写・読書の内容については、上記に示されていない場合も適宜取り扱う。

3年言語と文学 (MYP 4 Language and literature) 【国語：3単位】

科目のねらい

- MYP言語と文学の指導と学習のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。
- ・ 言語を思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
 - ・ さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。
 - ・ 文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
 - ・ 歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。
 - ・ 文学および非文学のテキストを通して、自分の母国や現在住んでいる国の文化、その他の文化を探究し、分析する。
 - ・ 多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。
 - ・ 生涯にわたる読書への関心を育む。
 - ・ 実際のさまざまな文脈において、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A：分析	i) テキストの内容、文脈、言葉、構造、技法、スタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を分析する。
	ii) 作者の選択が、受け手に与える効果を分析する。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えの理由を述べる。
	iv) ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴を関連づけることで、類似点と相違点を評価する。
B：構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
	ii) 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
	iii) 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
C：創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し批判的に振り返りながら、洞察、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する。
	iii) アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D：言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する。
	ii) 文脈と意図に応じた言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

※ねらい・目標・評価基準の記述は、IBO発行の「MYP Language and literature guide」に基づいています。

関連概念（言語と文学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関連性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル（文体）	テーマ

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総括的評価課題のMYP評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	1. 学習指導要領 観点との対応 2. 道徳内容項目 とのつながり
前期 (4月～9月)	1	1. アイデンティティー 2. アイデンティティーと関係性 3. 批判的思考スキル	<p>評論</p> <p>知識及び技能 第3学年(1)イ・ウ(2)ア 思考力・判断力・表現力等 A第3学年 イ・ウ C第3学年 ア・イ・ウ・エ</p> <p>鷲田清一「誰かの代わりに」(教科書) 鷲田清一「大事なものは見えにくい」</p>	<p>提言</p> <p>「選択した評論文と関連させ、「自分」について考察する」</p> <p>【A】鷲田の文章に表れる自分についての考えを読み解き、根拠として効果的に用いて自分の考えを論じる。 【C】様々な関連する独創的な具体を根拠として用いてアイデアを発展させる。 【D】適切な語彙や表現形式、文法を用いる。また、場面にふさわしく受け手を考慮した言葉遣いを使用する。さらに、言語以外のコミュニケーション手段を効果的に用いる。</p>	<p>1.</p> <p>①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-C</p> <p>2. A-3</p>
	2	1. ものの見方 2. 空間的・時間的位置づけ 3. コミュニケーションスキル	<p>言語と価値観</p> <p>知識及び技能 第3学年(1)イ・エ(2)ア・イ(3)イ・ウ 思考力・判断力・表現力等 B第3学年 ア・イ・ウ・エ</p>	<p>記述試験</p> <p>古典語彙から日本人の価値観を論じるエッセイ</p> <p>【B】自分の考えに一貫性を持たせ、論理的に組み立てる。また、原稿用紙のフォーマットに適切に従い記述する。 【C】様々な関連する独創的な具体を根拠として用いて文章を組み立てる。 【D】適切な語彙や表現形式、文法を用いて記述する。エッセイに相応しい文章表現を用いて記述する。</p>	<p>1.</p> <p>①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-C</p> <p>2. C-17</p>
後期 (10月～3月)	3	1. ものの見方 2. 個人的表現と文化的表現 3. コミュニケーションスキル	<p>随筆</p> <p>知識及び技能 第3学年(3)ア・イ・ウ 思考力・判断力・表現力等 B第3学年 ア・イ・ウ・エ C第3学年 ア・イ・ウ・エ</p> <p>「新明解古典シリーズ『枕草子』」 「新明解古典シリーズ『徒然草』」</p>	<p>記述試験</p> <p>『徒然草』に表れた筆者と時代の価値観について論じるエッセイ</p> <p>【A】『徒然草』『枕草子』に表れる価値観の類似点や相違点を適切に評価し、自分の考えと関連させて論じる。 【B】自分の考えに一貫性を持たせ、論理的に組み立てる。また、原稿用紙のフォーマットに適切に従い記述する。 【C】様々な関連する具体を根拠として用いて文章を組み立てる。</p>	<p>1.</p> <p>①知識・技能-B ②思考・判断・表現-A ③主体的に学習に取り組む態度-C</p> <p>2. C-17</p>
	4	1. アイデンティティー 2. アイデンティティーと関係性 3. 転移スキル	<p>文学批評～葛藤～</p> <p>知識及び技能 第3学年(1)ア・イ・ウ 思考・判断・表現 B第3学年イ・ウ・エ・オ C第3学年ア・イ・ウ・エ</p> <p>魯迅「故郷」(教科書) ※以下から選択 森鷗外「舞姫」 芥川龍之介「羅生門」 有島武郎「生れ出づる悩み」</p>	<p>記述試験</p> <p>文学作品において葛藤がどのように描かれるか論じるエッセイ</p> <p>【A】「羅生門」「舞姫」「生まれいづる悩み」に表れる葛藤を作品内外のコンテキストやメタファーと関連させて読み解く。 【B】自分の考えに一貫性を持たせ、論理的に組み立てる。また、原稿用紙のフォーマットに適切に従い記述する。 【C】様々な関連する具体を根拠として用いて文章を組み立て、自分の考えを論ずる。 【D】適切な語彙や表現形式、文法を用いて記述する。エッセイに相応しい文章表現を用いて記述する。</p>	<p>1.</p> <p>①知識・技能-D ②思考・判断・表現-B ③主体的に学習に取り組む態度-A、C</p> <p>2. D-22</p>

※【知識及び技能】(1)語彙・漢字・言葉遣い(2)情報(3)書写・読書の内容については、上記に示されていない場合も適宜取り扱う。

4年言語と文学 (MYP 5 Language and literature) 【現代の国語：2単位 / 言語文化：2単位】

科目のねらい

MYP「言語と文学」のねらいでは生徒が以下のことができるように期待されています。

- ・言語を思考、創造性、振り返り、学習、自己表現、分析、および社会的な相互作用の手段として利用する。
- ・さまざまな文脈で、聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと、見ること、発表することに関わるスキルを身につける。
- ・文学および非文学のテキストを学習し分析することへの、批判的で創造的で個人的なアプローチを探究する。
- ・歴史上のいろいろな時代とさまざまな文化のテキストに取り組む。
- ・文学および非文学のテキストを通して、自分の母国や現在住んでいる国の文化、その他の文化を探究し、分析する。
- ・多様なメディアや伝達様式（モード）を通して言語を探究する。
- ・生涯にわたる読書への関心を育む。
- ・実際のさまざまな文脈において、言語的・文学的な概念とスキルを応用する。

目標および評価基準

MYP 評価観点	
A:分析	i) テキストの内容、文脈、言葉、構造、技法、およびスタイル（文体）と、複数のテキスト間の関係性を特定し説明する。
	ii) 作者の選択が、受け手に与える効果を特定し説明する。
	iii) 例、説明、用語を用いて、意見や考えを正当化する。
	iv) ジャンルやテキストにおいて、または複数のジャンルやテキストにわたって、特徴の類似点と相違点を解釈する。
B:構成	i) 文脈と意図に応じた組織的構造を使用する。
	ii) 意見や考えを、持続的で一貫性のある、論理的な方法で整理する。
	iii) 執筆のフォーマットを利用して、文脈と意図に適した体裁を作成する。
C:創作	i) 創造的プロセスへの個人的な関わりから生じる新しいものの見方や考え方を探究し検討しながら、思考、想像力、感受性を示すテキストを創作する。
	ii) 言語的、文学的、視覚的な表現の観点から、受け手に与える影響を認識したスタイル（文体）を選択する
	iii) アイデアを発展させるために、関連する詳細情報と実例を選び出す。
D:言語の使用	i) 適切で多様な語彙、構文、表現形式を使用する
	ii) 適切な言語使用域（レジスター）とスタイル（文体）で書き、話す。
	iii) 正しい文法、統語法、句読法を用いる。
	iv) 正確に綴り（アルファベット言語）、書き（文字言語）、発音する。
	v) 適切な非言語的コミュニケーション技法を利用する。

※ねらい・目標の記述は、IBO発行の「Language and literature guide」に基づいています。

関連概念（言語と文学の学習を通して、生徒は以下の概念についても考えます）

受け手側の受容	登場人物	文脈	ジャンル
テキスト間の関連性	視点	目的	自己表現
設定	構成	スタイル（文体）	テーマ

年間計画

時期	ユニット	1. 重要概念 2. グローバルな文脈 3. ATL	学習内容・教材等	総合的評価課題の MYP 評価観点（【 】内） および課題概要と評価方法	学習指導要領観点との対応
前期 （4月～9月）	1	1. ものの見方 2. 科学技術と発展 3. 批判的思考、転移	評論 ～科学技術と人間～ 【現代の国語】 知識・技能 (1) アウエオカ (2) アイウエオ 思考・判断・表現 B(1) アイウ C(1) アイ (教科書) 「まちの豊かさとは何か」他	エッセイ「科学技術と人間」に関する考察 【A】科学技術と人間の関係を考察した評論文を要約・分析し、筆者の意見を正しくとらえる。 【B】発明と人間の関係について、二項対立的を用いた組織的な構造を用いて考察する。 【C】筆者の主張に対する新しいものの見方や考え方を探究・検討し、自分の意見を記述する。 【D】適切で多様な語彙を使用し、明確に表現する。	①知識・技能-A ②思考・判断・表現-BC ③主体的に学びに向かう態度-D
	2	1. 文化 2. 個人的表現と文化的表現 3. 情報リテラシー、批判的思考	古文読解 【言語文化】 知識・技能 (1) アウエオ (2) アイウエカ 思考・判断・表現 A(1) アイ B(1) アイウエオ (2) アイウエオ (教科書) 『芥川』『東下り』『筒井筒』他	翻訳「選択した古典文学作品における、文化的背景やコンテキストを踏まえた翻訳の創造」 【A】文脈、語彙、構造、技法および文化的背景を翻訳に活かす。 【C】作品における文化的背景などを調査し、それらを翻訳にどのように活かしたのかを的確に示す。 【D】古典文法を正しく理解したうえで、翻訳にふさわしい効果的な言語表現を用いる。	①知識・技能-D ②思考・判断・表現-A ③主体的に学びに向かう態度-C
後期 （10月～3月）	3	1. ものの見方 2. 公正性と発展 3. コミュニケーション、批判的思考、転移	表現の深層 【現代の国語】 知識・技能 (1) アイエオカ (2) アイウ 思考・判断・表現 A アイウ B アイ 安部公房「良識派」 石井美保「鳥の眼と虫の眼」(教科書)等	提言「表現の深層にある偏見」 【A】対象作品の表現をどのように分析したかを示す。 【B】自身の考えを論理的に整理し、正しく効果的に他者へ伝える構成や流れを判断し使用する。 【C】対象作品から、示された課題や表現に対する新たな見方を提示する。 【D】適切な語彙および非言語コミュニケーション技法を効果的に使用する。	①知識・技能-D ②思考・判断・表現-AB ③主体的に学びに向かう態度-C
	4	1. つながり 2. 時間的空間的位置づけ 3. 批判的、創造的、転移	つながりと再構築 【言語文化】 知識・技能 (1) アイウエオ (2) アイウエオカ 思考・判断・表現 A(1) ア B(1) アイウエオ (2) アイウエオ (教科書) 『羅生門』『羅生門の上層に登りて死人を見たる盗人のこと』、 『香炉峰下新ト山居』 『雪のいと高う降りたるを』他	エッセイ「文学作品の変遷と影響」 【A】複数のテキストにおけるテーマ・モチーフ等の共通性や差異を分析する。 【B】分析の根拠を論理的に説明する。 【C】個人的な関心から生じる新しいアイデアを探究し、選択作品の変遷や影響に関連づける。 【D】選択作品の文法事項等について正しく理解し、適切で多様な語彙を使用し、明確に表現する。	①知識・技能-D ②思考・判断・表現-AB ③主体的に学びに向かう態度-C